

1 研究の概要

(1) 研究主題

高等学校商業科における生徒が主体的に学び合う授業づくりの工夫
ーペア学習による言語活動を取り入れた授業実践を通してー

(2) 主題設定の趣旨

中央教育審議会答申（平成 20 年 1 月）によれば、言語活動の充実が各教科等を貫く重要な改善の視点であると述べられています。それを受け、高等学校学習指導要領（平成 21 年 1 月改訂）では、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で、必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実することが明記されました。

高等学校では、これまで生徒が小学校、中学校を通じて学んできた言語活動を更に発展拡充させてきています。職業に関する学科を置く高等学校（専門高校）における専門学科の教科・科目や実習においても、言語活動を積極的に取り入れた授業実践を行うことは、主体的に学び合う生徒の育成につながると考えました。

高等学校学習指導要領解説商業編（平成 22 年 1 月）によるとビジネス情報の目標は「情報通信ネットワークの導入やソフトウェアの活用に関する知識と技術を習得させ、情報を効率的に処理することの重要性について理解させるとともに、ビジネスの諸活動においてコンピュータを適切に運用する能力と態度を育てる」⁽¹⁾ となっています。さらに表計算ソフトウェアの活用のねらいとして「表計算ソフトウェアを有効に活用するための基礎的な知識と技術を習得させる」⁽²⁾ となっています。

一般的にコンピュータ実習の授業では、教師主導の一斉授業の形で、生徒一人一人がコンピュータの前で教師の指示に従いながら行われています。この一斉授業での実習の利点は、決められた学習内容を短時間で指導することが可能な点です。しかし、この方法では、実習が進むにつれて、その集団の中で得意な生徒と不得意な生徒の二極化が生じてしまい、特に、不得意な生徒にとっては、最低限のスキルは習得できても、それを活用できるレベルに到達できていないのが現状でした。

そこで、この二極化の解消のために、得意な生徒と不得意な生徒のペアで実習させてみてはどうかと考えました。ペア学習において、得意な生徒と不得意な生徒が協力して検定に関する課題の解決に当たられます。こうすることで、不得意な生徒にとって、教師の一方的な指導よりも同級生からのアドバイスの方がより理解しやすくなったり、分からないことを尋ねやすくなったりすると考えます。併せて、得意な生徒にとっては、教えることで自分自身の理解がより深まるなど、双方にとって効果的に働くのではないかと考えました。

将来、ビジネスの現場などでも、チームを組み、共に協力して課題の解決に当たることをイメージすれば、このペア学習は必ず有効に働くのではないかと考えました。

(3) 研究の目標

高等学校商業科ビジネス情報の実習において、単元目標「表計算ソフトウェアを有効に活用するための基礎的な知識と技術の習得」を達成させるためにペアによる実習を取り入れた言語活動の在り方を探る。